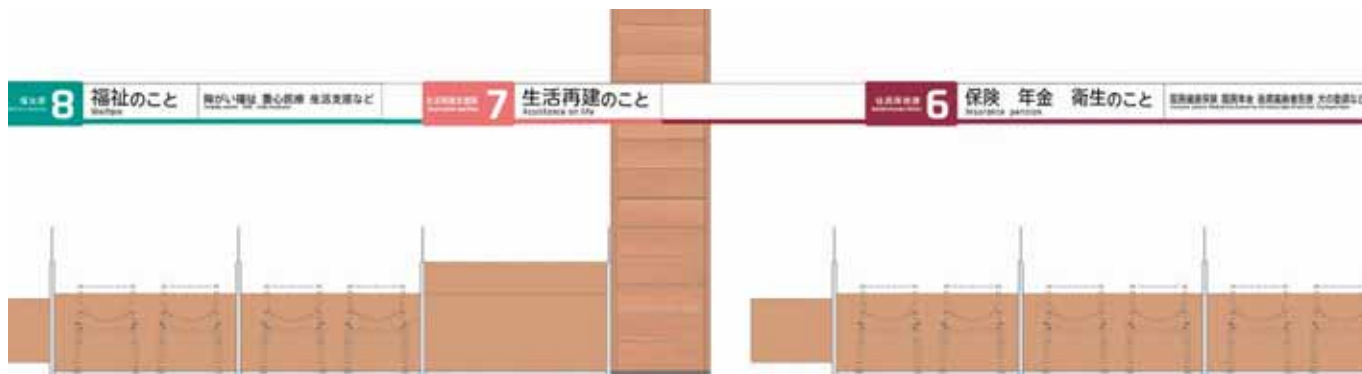


■分かりやすいサイン(看板)と人にやさしいユニバーサルデザイン



庁舎内のサインは、内容が一目で分かる視認性の高いものを採用。ピクトグラム(絵記号)を用い、色や形、設置位置にも配慮し、訪れた全ての人が、目的の場所に迷わずたどり着けるようにします。

また、車いすでも使用できる高さの窓口カウンターや、複数箇所の多目的トイレを設けるなど、誰もが使いやすい庁舎にします。



目的の場所がすぐわかるよう表示した窓口のイメージ

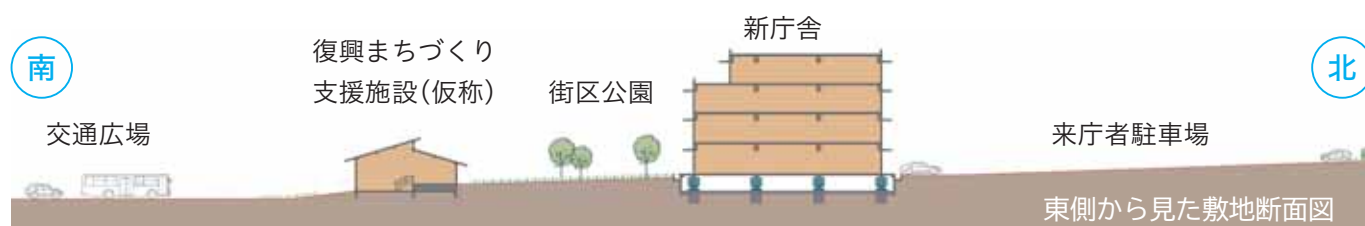
■段差をできるだけなくした造成計画

新庁舎の敷地は、段差をできるだけなくし、なだらかな一面の土地として整備します。来庁者が利用しやすく、バリアフリーに配慮し、災害が発生した場合に活動広場としての機能も有します。

また、庁舎北側には、約130台分の来庁者駐車場を整備。加えて、雨の日でも乗り降りしやすい庇付きの「障がい者等用駐車場」と「障がい者等優先駐車場」も整備します。



北西側から見た新庁舎



東側から見た敷地断面図

■復興まちづくり支援施設(仮称)



「気軽に集える住民活動と交流の場」、「熊本地震の記憶の継承の場」、「災害に備える場」として、復興まちづくり支援施設(仮称)を新庁舎と同一敷地内に整備します。

この施設は、耐震構造の平屋建てで、町の復興を目的としたイベントなどに使用できる多目的室を2室、展示ギャラリー、災害発生時のための備蓄倉庫や床下収納などを備えます。